

4. 北見沿岸の基本理念、基本方針

4.1 基本理念

北見沿岸における海岸保全の方向性を検討するにあたり、沿岸域への対応及びその保全についての「基本理念」を以下のように設定する。

＜基本理念＞

北見沿岸は北海道東部に位置し、知床国立公園および網走国定公園、北オホーツク道立自然公園、クッチャロ湖、サロマ湖などの湖沼群や流氷が訪れるオホーツク海などすぐれた自然に恵まれている。海岸線はなだらかに砂浜が続き、背後には多くの原生花園が存在している。海域には、藻場・干潟が分布し、生物の生息・生育環境になっている。

当沿岸はオホーツク海からの流氷により1月から3月までの約3ヶ月間氷に閉ざされる海域である。オホーツク海は水産資源に恵まれ、基幹産業であるホタテ養殖漁業の漁場となっているほか、冬季には流氷を活用した流氷ダイビング等のレクリエーションの場ともなっている。

また、恵まれた自然環境は地域の人々の憩いの場、安らぎの場、釣り等の海洋性レクリエーションの場として利用されているほか、観光資源としても活用されている。

このように沿岸は地域住民にとって様々な恵みを与える場として貴重な空間である。

しかし、当沿岸は現在も波浪による越波被害が後を絶たないほか、土砂収支の不均衡による海岸侵食により砂浜が減少し、背後の原生花園等への影響も危惧されている。また、海岸線はサケ釣り利用が行われているが、利用者のゴミの投棄により環境への悪影響が懸念される状況にある。

北見沿岸のあるべき姿とは、波浪及び海岸侵食等の自然災害からの安全性を確保し、恵まれた自然環境、景観の保全に努め、誰もが楽しく親しみを持つことのできる海岸であると考える。



＜テーマ＞

きれいで たのしく みな安全

流氷の訪れる きたみ沿岸

～ オホーツク海とともに生きる
安全で自然豊かな潤いある海岸 ～

4.2 基本方針

前項の基本理念及びテーマをうけ、保全に関する基本方針を以下のように設定する。

<基本方針>

◎安全な海岸づくり

波浪による越波や海岸侵食から背後の生命、資産、自然環境を守り、人々が安心して暮らせる海岸づくりを推進する。

◎恵まれた自然環境と共生する海岸づくり

貴重な動植物が生息・生育する自然環境や景観、藻場・干潟を保全するとともに、海岸共生意識の啓発活動を行い、自然環境教育、体験学習の場として次世代へ良好な海岸空間を継承する。

◎海とふれあいやすらげる海岸づくり

地域住民にとって憩いの場、交流の場である海岸へのアクセスの確保、高齢者、障害者に配慮した施設のバリアフリー化を行い、誰もが自然に親しみふれあうことのできる場としての海岸づくりを推進する。

◎地域の特色を活かした海岸づくり

流氷や自然公園などの雄大で恵まれた自然を活かし、漁業及び観光等の地域産業の発展と連携した海岸づくりを推進する。